

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	あいけりつあさひがっこうとうがっこう						②所在都道府県		愛知県	
26～30	①学校名	愛知県立旭丘高等学校									
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模					
	1年	2年	3年	4年	計		1年	2年	3年	計	
普通科	321	321	327		969	普通科	321	321	327	969	
						美術科	40	40	39	119	
⑥研究開発構 想名	「日本再興戦略を支える若手グローバル・リーダー育成に関する研究開発」										
⑦研究開発の 概要	「国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究」により獲得した批判的思考力と県立学校アクティブチャレンジ事業で行った課題研究をもとに、英語によるコミュニケーション、ディスカッション、論文作成能力を獲得するためのカリキュラムを開発し、海外でのフィールドワークを行う課題研究に取り組み、国際性に富むグローバル・リーダーを育成する。										
⑧ 研究 開 発 の 内 容 等	⑧ -1 全 体	<p>(1) 目的・目標 国際バカロレアの趣旨を踏まえた全人的完成教育を基盤に、海外でのフィールドワークを行う課題研究を通じて、日本再興戦略を支える若手グローバル・リーダー育成に関する研究開発を行う。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説 本校の教育課程の特色は、日本のトップを支える政治・行政分野、経済分野、数多くの学者、文化人を輩出してきた実績に支えられた全人的完成教育に代表され、多くの教科・科目を発展的な内容にまで踏み込み履修させている。 【仮説1】国際バカロレアの趣旨を踏まえたカリキュラムの研究開発を中心とし幅広い「教養」を身につけさせることは、グローバル・リーダー育成に不可欠である。 【仮説2】海外でのフィールドワークを含む課題研究に取り組みすることで、国際性豊かなグローバル・リーダーを育成することができる。 【仮説3】国際バカロレアの趣旨を踏まえた英語授業の実施や日常的に英語に接する機会を増やすことで、英語によるディスカッション・論文作成・プレゼンテーション等の能力を向上させることができる。 【仮説4】課題研究を通じ、海外の研究者、研究環境に刺激を受けることで、国際化に重点をおいた海外の大学への関心を高め進学者を増加させることができる。</p> <p>(3) 成果の普及 成果発表会を平成27年度より実施、広く成果を普及しSGH校以外の学校にもグローバル化への意識を浸透させる。また、幹事校を中心とした連絡協議会等で成果発表を行い、その情報を全国に普及させる。成果物は冊子としてまとめ、連携する大学や企業、愛知県内の高校等を中心に広く配布する。また、ホームページ（英語版を含む）を活用し積極的な情報発信に努める。</p>									
		⑧ -2 課 題 研 究	<p>(1) 課題研究内容 「アジアから見た歴史・経済課題ーアジアから世界へー」をテーマとした課題研究を通じて「グローバル・リーダーとは何か」を考え、国際化社会をリードするグローバル・リーダーとしての資質を育成する。具体的には、次のようなテーマ例を想定している。・「経済発展と競争激化、格差の拡大」、「文化と言語のグローバル化・多民族共生・多文化共生」、「環境保全と開発」 など</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 平成26年度は「グローバリゼーションとは何か」をテーマに日本との関わりが強く、グローバル化の進んだ韓国で、アジア通貨危機後の韓国経済や競争の激化と格差の拡大について、現地の企業訪問等により調査する。事前の学習として、歴史・経済的背景を理解するために、全校生徒を対象とし地理歴史・公民科の授業において、SGHに関連する課題を設定し授業において研究発表を行わせる。加えてJICA等を活用し、世界各国の歴史や文化等を外国人講師との交流を通じて学ぶ。さらに、韓国でのフィールドワーク希望者には、国内で3回（1泊2日2回、日帰り1回）のフィールドワークを行い、情報収集と課題の分析を行う。得られた成果については、本校生徒30名と韓国高校生・大学生との討論会を行い、大学生や高校生の世代から見た日韓のグローバリゼーシ</p>								

	<p>オン感の違い、世界との関わりなどを英語で討論する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>平成26年度は教育課程の変更を行わないが、平成27年度には、学校設定科目（教育課程の特例は必要としない）として第1学年の「英語表現Ⅰ」（2単位）を「SG 英語Ⅰ」（2単位）、第2学年の「英語表現Ⅱ（2単位）」を「SG 英語Ⅱ」（2単位）とし、課題研究のために必要な英文書籍・論文の読解、英文による論文作成、ディスカッション、プレゼンテーション、海外とのメールを含むコミュニケーション、海外渡航の知識等を学ばせる。また、「日本史 A」（2単位）を「SG 社会」（2単位）とし、国際的な課題となる社会問題の基礎を学ばせ、より充実した課題研究への取り組みを行わせる。いずれの学校設定科目においても、連携する大学の研究者を活用し、英語を主体としたコミュニケーションをはかることにより国際性を意識した教育課程とする。</p> <p>韓国でのフィールドワーク・討論会等の希望者に対しては、年間通して水曜7限に特設授業を実施し「SG」として単位を認定（2単位）する。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>①「国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究」のTOKの手法を取り入れたカリキュラムを全教科・科目の授業において実施することで、世界水準の思考力を育成するカリキュラムを完成させる。平成26年度は、「マインドマップ」を用いた批判的思考の養成や「リフレクションシート」の繰り返し、測定手段としての「思考力テスト」などのカリキュラムを各教科において研究開発することで、批判的思考態度、客観性重視の態度、証拠重視の態度の向上を目指す。</p> <p>②英語、総合的な学習の時間における「国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究」のTOKの手法を取り入れたカリキュラムによる英語によるディスカッションの実施、課外活動における「グローバル・カフェ」での英語による座談会、JICA等の国際協力出前講座での英語による講演と討論など様々な機会を通じて英語漬け環境をつくり出すことで、コミュニケーション、ディスカッション能力の向上を図る。</p> <p>③国際バカロレアの趣旨を踏まえた授業において、積極的に論文作成やプレゼンテーションに取り組み、より質の高い論文作成、プレゼンテーション能力を獲得させる。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</p> <p>⑧-2と同様の学校設定科目を設定し、より国際性を意識した教育課程とする。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <p>①海外の研究者・学生等との学術的交流</p> <p>海外での探究活動以外の場面でも、積極的に交流を行うため、インターネットの会議システムやメールを活用し、定期的に情報交換や討論を実施する。連携する名古屋大学・一橋大学・京都大学をはじめとした大学関係者や日本貿易振興機構アジア経済研究所、アジアメディカルセンターシンガポールなど企業の協力を得て、海外とのネットワークを早期に構築する。</p> <p>②外国人留学生等とのワークショップ</p> <p>名古屋大学との連携の中で、外国人留学生や大学生・大学院生と、グローバルな社会課題をテーマにしたワークショップ（月1回程度）を定期的に開催する。</p> <p>③帰国子女・外国人留学生の積極的な受け入れ</p> <p>入学段階での帰国子女等の受け入れや編転入等、積極的な受け入れを図る。また、海外高校との姉妹校を設けることで、外国人留学の受け入れについても積極的に行う。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>発展的学習として、様々な分野で活躍する研究者や文化人による特別講座・教養講座を行い、各分野の最先端に触れ生徒の知的好奇心を刺激し、より高い教養を習得させている。</p> <p>平成26年度については、第3学年は、JICA出前講座、グローバル・カフェ、講演会への参加のみへの参加に限定し、課題研究ではSGHの対象としないが、学年進行により平成27年度より、第3学年で、成果論文の作成、コンテスト等での課題研究成果の発表を行わせ、取り組みのまとめとする。</p>

ふりがな	あいちけんりつあさひがおかこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	愛知県立旭丘高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:	33人	53人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 1人で複数回の社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む人数を増やす									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	4人	1人	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 本事業が刺激となり、積極的に海外へ行くよう働きかける									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:	%	55%	%	%	%	%	%	30%
目標設定の考え方: 海外の現状をしっかりと把握させ、より広い世界で勝負できる人材を数多く育成する									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	5人
	SGH対象生徒以外:	人	0人	人	人	人	人	人	3人
目標設定の考え方: 活動成果を積極的にアピールできる人材の育成を目指す									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	6.90%	5%	%	%	%	%	%	25%
目標設定の考え方: 通訳なしで、堂々と世界で戦える人材を育成する									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:	45%	48%	%	%	%	%	%	70%
目標設定の考え方: これまでも合格者数が多いが特定の大学狙いで浪人が多い。浪人の1年を海外へ出て活躍するようにさせた									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	0人	0人	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 国内の大学よりも様々な可能性を秘めた海外へ目を向けさせる									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	50%
目標設定の考え方: 世界の動向を知り、日本よりも海外へ出て活躍する人材を育成する									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 高校での成果が、少し遅れて大学で効果が現れることも想定する									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: 課題研究に自主的に参加する生徒は全て海外で活動させる								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	23人	25人	人	人	人	人	人	40人
目標設定の考え方: 日本の現状を正しく理解するためにも、積極的に研修に参加させる								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	0校	校	校	校	校	校	5校
目標設定の考え方: より多くの連携校を得て、国際間の連携を推進する								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	10人	8人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 外部人材の積極的活用で、より密度の高い探究活動を行わせる								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0人	0人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: グローバルの最前線の人材と関わる機会を数多く設定する								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	0人	0人	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 大会参加により国際基準を体験させ研究の質を上げる。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	2人	1人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 積極的に受け入れることで、世界を身近に感じ取れる環境をつくる								
先進校としての研究発表回数								
h	1回	2回	回	回	回	回	回	5回
目標設定の考え方: 積極的な研究発表で、外部評価を検証する。								
外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方: 世界への情報発信の基礎である。早期に整備する。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	965	969	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							